

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社リバネス

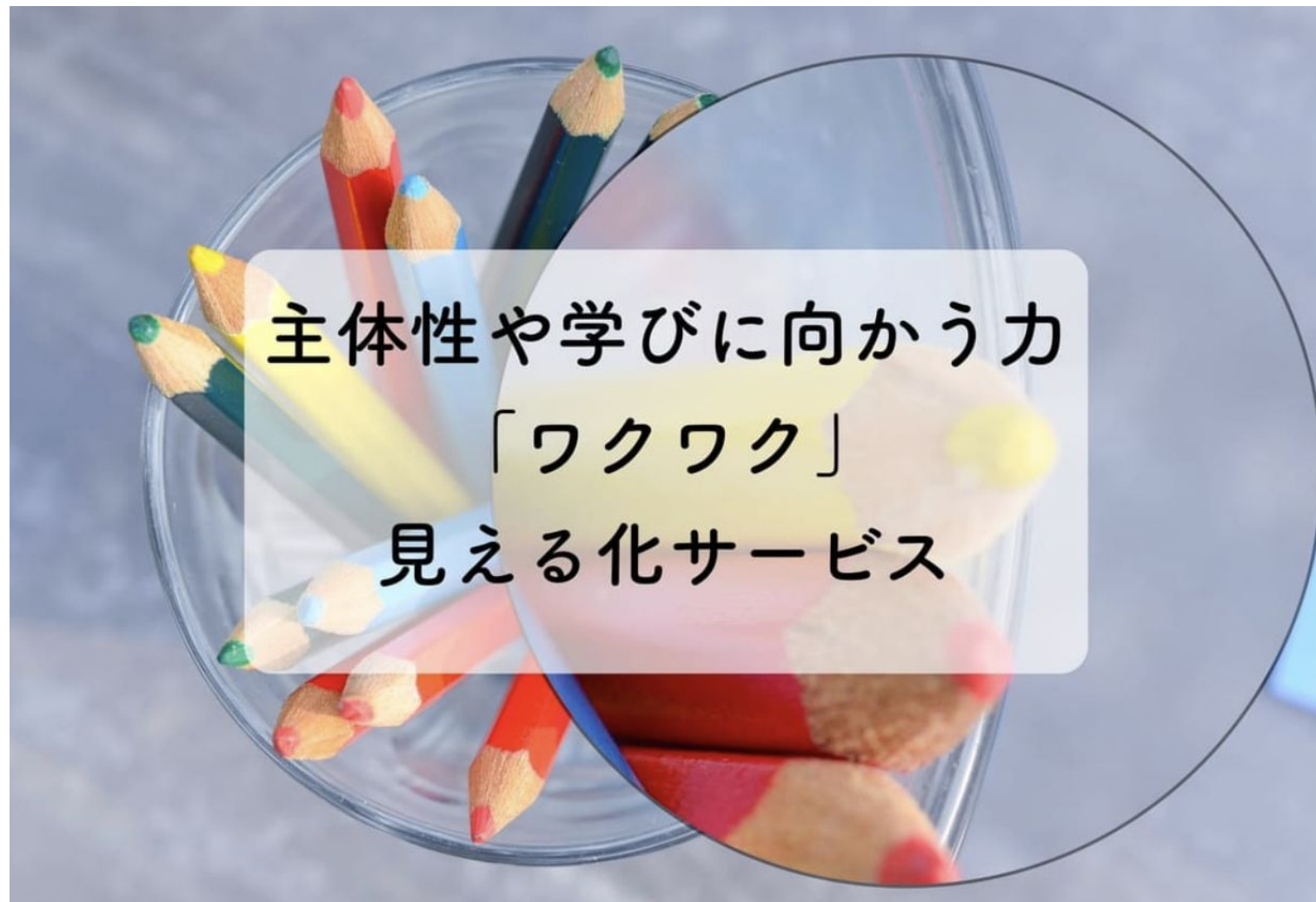
【ツール名】

ワクワク見える化サービス

【ツールの機能分類】

学習支援・授業支援(LMS)

2022年2月



主体的な学びに向かう力「ワクワク」見える化サービス

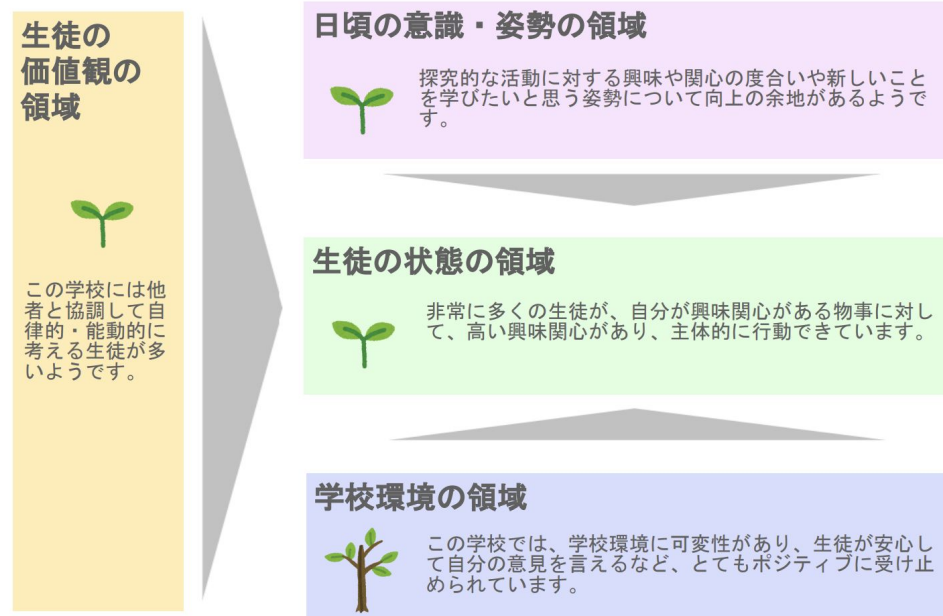
いま、学校では、知識と技能だけではなく、主体性や行動力、社会への関心など、学校教育における「新しい学び」へ繋がるさまざまな取り組みが行われている。各学校が試行錯誤を繰り返す中で、どんな取組みが効果的なのか、生徒のどのような変化に繋がっているのか、依然手探りが続いている。そこで、リバネス教育総合研究センターでは、2018年から、社会心理学者の正木郁太郎氏と共同で、ものごとへの興味関心から主体的行動につながる「ワクワク」が重要なのではないか、という仮説から出発し、全国の先生方と一緒に約 4,000名の生徒のデータを解析してきた。従来テストで数値化していた教科知識では測りきれない資質や経験を定量的に見える化することを目的としたこの研究では、最初は「ワクワクと主体的行動」の関係の解明から始まり、多くの学校と共同研究を進めるなかで、生徒の主体的行動に関連する多くの因子の特定を行った。

■ 本サービスの特徴

生徒が興味関心から、主体的な行動を起こす状態には、生徒の価値観、日頃の意識・姿勢、学校環境の領域が右図のように密接に関係することが明らかになっている。「ワクワク」見える化レポートではそれぞれの領域別に、現状を見える化する。また、測定の前後のヒアリング、報告を通してデータの活用方法についてサポートも行う。

■ 測定する項目

- 生徒の価値観の領域: 様々な物事に関心を持ち、自ら主体的に取り組む姿勢の前提になる指標
- 日頃の意識・姿勢の領域: 探究的な活動に対する興味や関心の度合いや新しいことを学びたいと思うかの指標
- 生徒の状態の領域: 自分が興味関心がある物事に対して、どれだけ興味関心があり、主体的に行動できているかの状態
- 学校環境の領域: 学校環境や先生との関係性がどれだけポジティブに受け止められているかの指標



■ EdTech ツールの概要

■ アンケート項目の概要

設問数と所要時間 全21項目、89問 回答所用時間 15分～20分程度
設問項目 1) 価値観 2) 日頃の意識・姿勢 3) 生徒の状態 4) 学校環境の4項目を構成する設問(複数もしくは選択制、段階形式、自由記述を組み合わせたもの) 形式 Googleフォームを使ったオンライン回答。

■ 使用方法

学校単位での申し込み。学校単位での申し込み。人数に限らず事前と事後の合計2回の調査を受け、その結果を確認できる。特定の学年やクラスのための測定も可能。

■ 本サービスの活用方法、活用による効果

探究活動や行事を含めた学校の様々な取り組みが、生徒たちの行動や考え方にどのように影響しているかを可視化する。

■ 利用料

33 万円(税込)

上記費用には、事前1回、事後1回の2回測定、生徒の回答結果の書面による報告、事前打ち合わせ、事後打ち合わせの`面談が含まれる。

測定カテゴリ	設問例
①生徒の価値観 周囲との競争や自己主張を重視するか・協調や調和を重視するか、もしくは誰かに決めてもらうことを重視するか、自分で決めることを重視するか、など個人の価値観の方向性に関する設問	あなたが普段大切にしている考え方はどちらですか？ A: 社会や身近な問題を解決する B: 自分が楽しいと思えることをする
②生徒の日頃の意識・姿勢 学校生活において「答えのない問いに取り組む」など探究的要素がある活動に関する自信の高低や、試行錯誤、目標設定に関する姿勢、受動的ではなく能動的に学校や人生、社会問題に対して関与しようとする姿勢など、日頃の意識と姿勢に関する設問	次のそれぞれの文章は、あなた自身にどの程度あてはまりますか？ ●どんなことにも興味や関心を持つ方だ ●未知のことに挑戦することが好きだ 他
③生徒の状態 物ごとに関心があり、それに対して内心でワクワクしていて、そのことに対してどれくらいの行動をとっているか、自分自身の価値を認め、肯定的に捉えることができる状態などを捉える設問	あなたは、具体的に取った行動について、あてはまる選択肢を選んでください。 ●インターネットで調べてみた ●本を読んだみた ●積極的に自分の興味について誰かに話したり、発表をしてみた 他
④学校環境 学校の環境が固定的ではなく、生徒が目的に応じて自由に使えるという可変性の高さや、生徒と先生の関係性などに関する設問	あなたの学校に対する考えについてお聞きします。次のそれぞれの項目は、あなたの考えにどれくらいあてはまりますか？ ●授業によっては、自分のやりたいことやアイデアを大事にしてもらえと思う ●自分が新しいことをやりたいと思ったとき、教室などの学校の設備は自由に使いやすいと思う 他



▲レポート例

オンラインで受講した結果は、クラスや学年など集団の単位でレポート化される。

生徒が集団としてどのような状況なのかを可視化し、授業改善や指導のやり方を検討する上での材料として活用できる。

◀測定カテゴリと設問例

■ 学校等教育機関の抱える課題

【課題】

学校では、知識と技能だけではなく、主体性や行動力、社会への関心など、学校教育における「新しい学び」へ繋がるさまざまな取り組みが行われている。探究活動や、課外授業、行事など、多くのそれらの取り組みは、従来のテストなどでその効果を可視化することが容易ではない。その中で、どんな取り組みが効果的なのか、生徒のどのような変化に繋がっているのか、その効果を議論するベースとなるデータが乏しく、結果的に、取り組みの継続や改善の手立てを立てることが難しい状態が続いている。

【本サービスによる解決方法】

探究活動のプログラムを一新したタイミングなどで、学校の新しい取り組みの効果を見るために活用する。

また、探究活動を通して養う生徒の主体性や行動力の推移などを参考とし、成績など学校に既に存在する指標を組み合わせ、プログラムや指導方法の改善を議論するための土台として役立てる。

さらに、留学やイベントなどの行事など、特色ある取り組みの効果や、生徒の積極性や行動力の変化など、教科の知識に加え、学校が育成したい方向性へ近づけるための指標をととしても活用してもらうことを狙っている。

■ EdTech導入補助金2021における活用事例

学校Aの場合

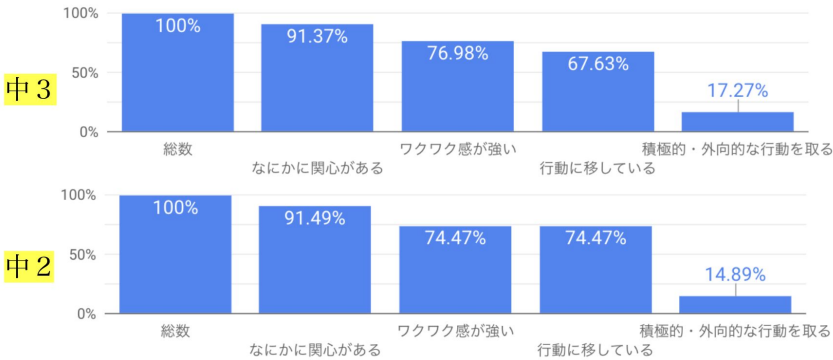
サービス利用の目的

学校の独自のカリキュラムを通して、探究的な学びに力をいれているが、生徒がどの程度、自らから積極的に取り組んでいるかを可視化したい。

行ったカスタマイズ分析

学年別比較。他校比較。

結果抜粋



▲他校と比べても、関心がある、ワクワク感が強い、行動に移している割合が高いことがわかった。

質問文	あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる	%
授業によっては、自分のやりたいことやアイデアを大事にもらえると思う	2	8	42	66	21	62.59%
自分が新しいことをやりたいと思ったとき、教室などの学校の設備は自由に使いやすいと思う	11	30	48	42	8	35.97%
生徒が中心になって課外活動などに取り組むとき、教室やグラウンドは便利に使えると思う	7	22	39	54	17	51.08%

ワクワクからの具体的な行動	非選択	選択	選択率
インターネットで調べてみた	25	80	76.19%
本を読んでみた	62	43	40.95%
積極的に自分の興味について誰かに話したり、発表してみた	76	29	27.62%
詳しい学校の先生に質問したり、話を聞いてみた	99	6	5.71%
詳しい友人に質問したり、話を聞いてみた	77	28	26.67%
詳しい学外の人に質問したり、話を聞いてみた	96	9	8.57%
学校の中で、イベントを企画したり、提案したりしてみた	105	0	0.00%
学校外でイベントに参加したり、博物館・資料館などを見に行った	92	13	12.38%
テレビ番組や、新聞を見てみた	64	41	39.05%
興味や関心がある授業に、積極的に参加した	96	9	8.57%

▲ワクワクからの具体的な行動において、「本を読んでみた」の値が他校より高く、学内での朝読書の取り組みの効果が示唆された。

◀一方で、興味関心を持った生徒(中3)学校の設備に対して使いにくいと思っていることがわかった。

結果サマリと活用方法

これらのデータを踏まえて、この学校の現在の探究的な学びの取り組みは、物事への興味関心・主体的な行動において、良い影響がでていることがわかった。

特に、読書への取り組みは生徒の中で定着していることがわかったので、引き続き継続していく。

一方で、中2と中3を比べると、学校環境の使いやすさについて、不満を持つ生徒が多くなる傾向があった。ここから、研究設備の充実や大学との連携を進めたり、学校の設備でできる取り組みを生徒へ発信するなど、検討する。

■ EdTech導入補助金2021における活用事例

学校Bの場合

サービス利用の目的

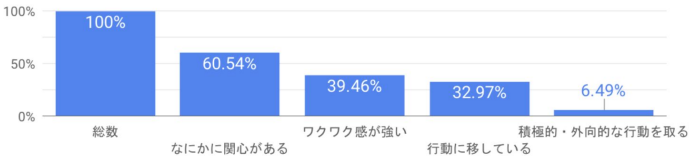
ひとりひとりの良さや強みを伸ばす理念のもと、次年度からは新しいコースを設立する。その上で、ベースラインとして、今の生徒たちが主体性やワクワクにおいてどのような状態なのか可視化したい。また、科別の比較をしてどのような違いがあるのか知りたい。

行ったカスタマイズ分析

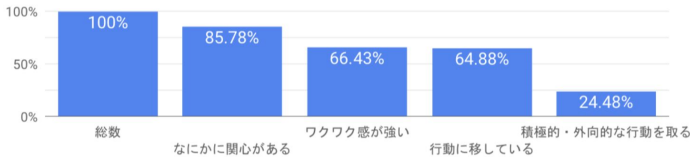
学科別比較。他校比較。

結果抜粋

学校B



学校Bを
のぞく4校



◀何かに関心がある、と回答した人が6割なのに対し、他の学校の平均は8割以上と大きな違いが見られた。

I科1年 I科2年

質問文		あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる	%
自己肯定感	私は、自分自身に満足している	8	17	36	15	7	26.51%
	自分は価値がある人間だと思う	10	14	44	9	6	18.07%
	私は、今の自分が嫌いだ	16	14	36	11	6	20.48%
自己効力感	努力をすれば、どんなことでもそれなりにうまくできる自信がある	4	16	33	18	12	36.14%
	少しでも失敗をすると、もうあきらめてしまうことが多い	10	20	34	14	5	22.89%
	どんなことにも前向きに挑戦できる	7	16	41	12	7	22.89%

※「%」には「ややあてはまる」「あてはまる」を選択した人の割合を記載した

結果サマリと活用方法

これらのデータなどから、自分が興味関心があること、もっと突き詰めていきたいことが見つかっていない生徒の割合が多いことが示唆された。

一方で、自己肯定感においては、他校よりも高い値がでており、自分自身を肯定的に捉えられていることもわかり、I科で特に顕著に向上が見られた。

これらデータから、学校ではI科の取り組みを細かく見ていく。それと同時に、来年度から普通科へ探究的な学びを中心におくコースを開設するため、生徒の興味とワクワク、行動を伸ばしていく取り組みへと活用していく。

◀このコースでは、1年と2年で大きく自己肯定感、自己効力感の向上が見られた。

■ EdTech導入補助金2021における活用事例

学校Cの場合

サービス利用の目的

研究活動へ活発の効果を可視化。とくに研究班ごとに研究活動を行なっているが班によって取り組み方、生徒の反応にばらつきがあるように感じる。その変化を可視化したい。

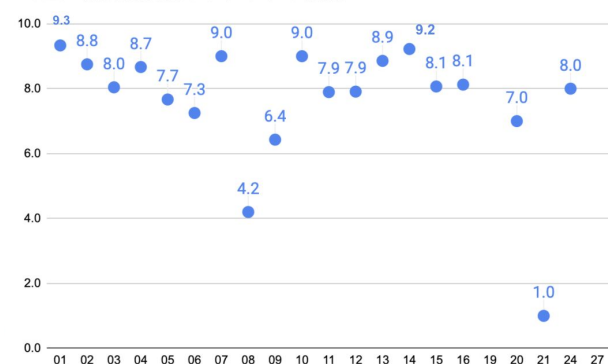
行ったカスタマイズ分析

学年別比較。他校比較。研究班比較。

結果抜粋



1年生：研究機関別のワクワクの強度



▲「周りの人の意見に耳を傾け、きちんと理解すること」、「複数の人と一緒に問題に取り組むこと」が高い一方で、「世界や社会で起きていることに目を向けて、どのような問題があるか知ること」、「オリジナリティや独自性がある、自分ならではのアイデアを考えること」については、自信を持っている生徒が少ない。

◀研究機関別にワクワクの強度をしらべたところ、違いが見えてきた。 活動内容の自由度が高い方がワクワクが高いという傾向があることが先生の観察から示唆された。

結果サマリと活用方法

SSHの取り組みの中で探究的な学びを多く取り入れている中でも、さらに強めていきたい分野として、「社会で起きていることに目を向ける」「オリジナルアイデアを考える」など、取り組みに取り入れることを検討する。

また、研究機関別の比較については、先生方の観察から、「活動内容の自由度」がキーファクターになると仮説を立てた。

受け入れ機関先への依頼内容へ反映させることを検討する。

■ EdTech導入補助金2021における活用事例

学校Dの場合

サービス利用の目的

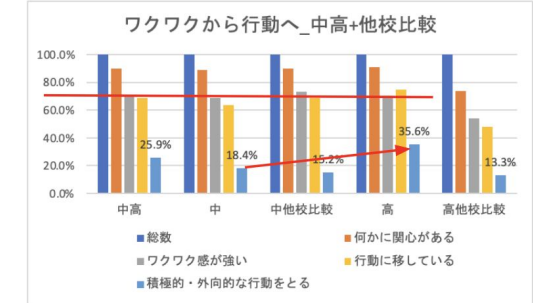
生徒の主体的に学びに向かう力や知的好奇心が向上しているか、またその程度の測定。特に Sコースについては、独自プログラムの導入を始めたので上記の力量形成にどのくらい有効であるかベースラインを測定すること。

行ったカスタマイズ分析

学年別比較。他校比較。コース別比較。

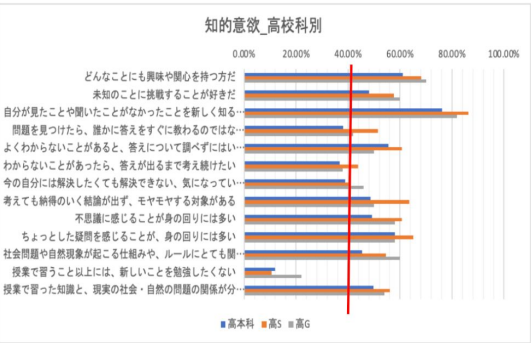
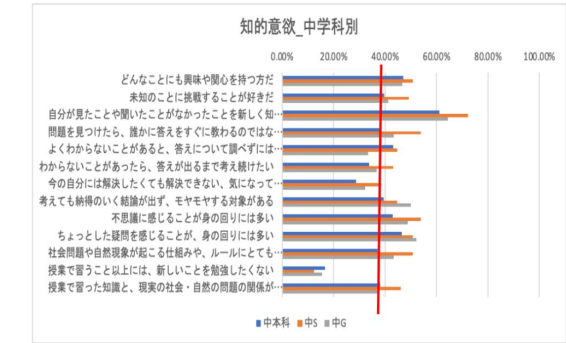
結果抜粋

生徒の物事への関心（ワクワク）の有無から行動まで



	中高	中	中他校	高	高他校
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
何かに関心がある	89.8%	88.9%	90.2%	91.0%	73.7%
ワクワク感が強い	69.7%	69.1%	73.6%	70.5%	54.0%
行動に移している	68.8%	63.8%	69.0%	75.1%	48.3%
積極的・外向的な行動をとる	25.9%	18.4%	15.2%	35.6%	13.3%

▲ 他校比較と学年比較の例。他校と比べて、積極的、外向的な行動を取る割合が高いことがわかった。これがどのようにプログラム導入で変化するか見ていく。



◀コース別比較。中高いずれでも Sコースが全体の数値を牽引している。また、設問においては Gコース中高比較の伸び幅が最大になっていることから、コースの取り組み効果が示唆された。

結果の活用方法

価値観や、探究姿勢など、多くの領域においてSコースの結果が他の学年を上回っている、またGコースも特有の自信が見られ、中学段階では自信が低い Rコースも高校では十分に数値が回復していることから、一貫教育の良さを見出せた。

本科コースが取り組んでいる地域の課題解決プログラムで狙っていたことと、結果が連動していることから、良いプログラムは引き続き導入を継続していく。

クラス単位での外向的行動スコアなどから、学年・コース・クラスの抱える課題が見える化されたので、これを踏まえた打手を検討する。

独自プログラム導入の経年変化をトラッキングし、内容のブラッシュアップに繋げる。

■ EdTech導入補助金2021における活用事例

学校Eの場合

サービス利用の目的

普通科へ年度後半から始まる探究学習の効果を測定するために、まずはベースラインを測定したい。クラスごとの違いと、昨年行なったアンケート調査との比較を行い、変化を知りたい。

行ったカスタマイズ分析

学年別比較。クラス別比較。他校比較。経年比較。

結果抜粋

探究的な活動における自信

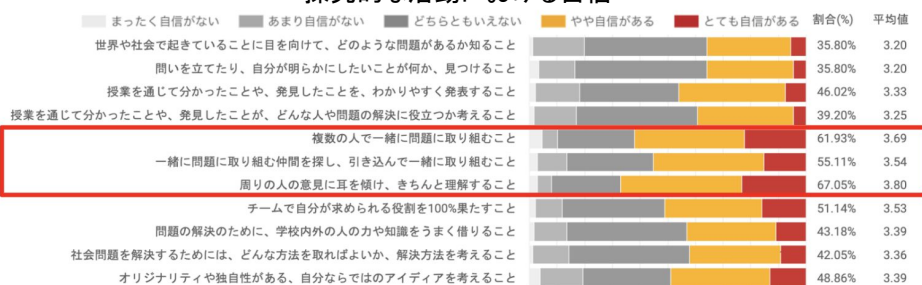
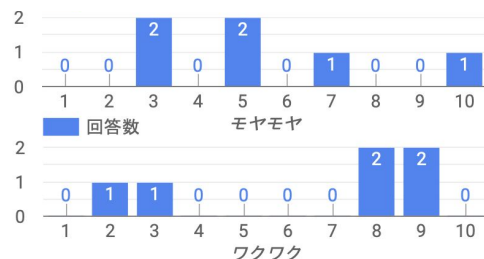
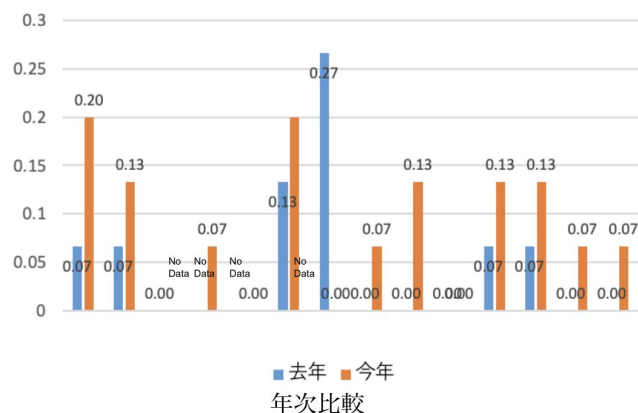


Fig.1 全校のグラフ



◀▲ 探究活動における自信は、チームで物事に取り組んで進めることに対して自信が持てている様子がわかる。一方で、値が高い人と低い人が分かれる二極化の傾向も見られた。

社会問題を解決するためには、どんな方法を取ればよいか、解決方法を考えること(「とても自信をもった」と回答した割合)



▲ 経年比較。社会問題に関する関心と解決方法を考えることにおいて、昨年よりもより自信をもてる環境になったことが示唆された。

結果の活用方法

これらのデータを踏まえて、探究的な学びへの自信や経験のベースラインを測定することができた。すでに習得が進んでいること、これから強めていけることが可視化され、今後の授業に生かしていく。

また、クラスごとの比較では、ワクワクや行動などにおいて高いクラスとそうではないクラスの差も見えた。行事などの機会が減っていたが、今後、クラス間の交流や探究プログラムなどの導入を進めることで、全体の向上を目指す。

■ 補助事業において実施したサポート内容

本事業において実施したサポート内容。左側が通常パッケージ、右側がEdtech導入補助金を使用した追加サポートを示す。

通常パッケージ(9月～12月の3ヶ月間該当)

お申し込み

事前ヒアリング実施

生徒向けアンケート測定

ご報告

Edtech導入補助金を使用した追加サポート(黄色 box)

お申し込み

事前ヒアリング実施

生徒向けアンケート測定

①教員向け
アンケート
開発

①教員向け
アンケート
測定

②ご報告

カスタマイズ分析

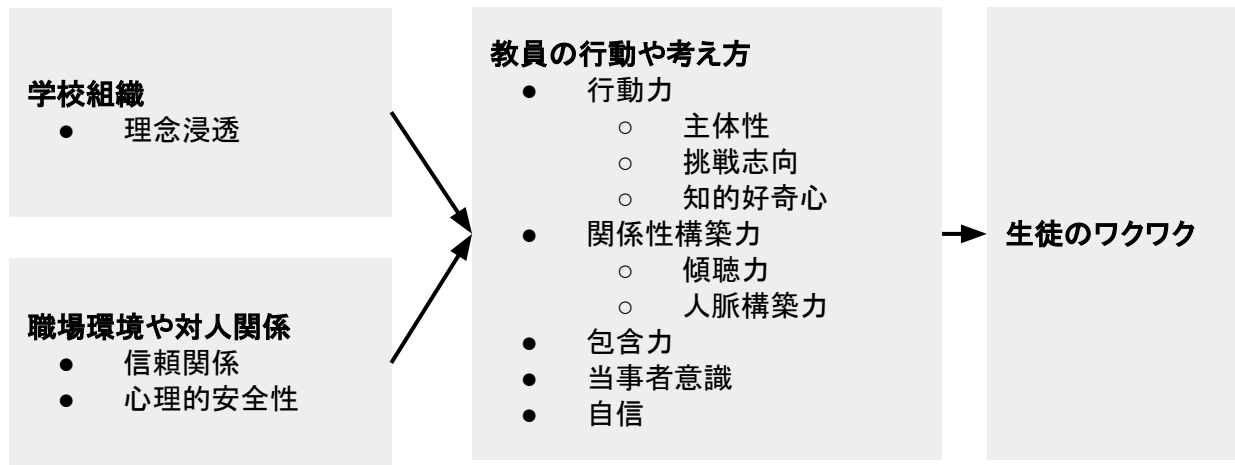
- パワーポイントにて個別資料作成
- 生徒の測定と先生の測定についての共有

③Edtech参加学校 合同振り返り会実施

■ 補助事業において実施したサポート内容

①教員アンケート開発、測定

生徒のワクワクを高めることに対する先生方の果たしている役割を明らかにするために、教員向けアンケートを開発した。開発するにあたり、「学校組織、職場環境や対人関係、教員の行動や考え方」などを洗い出し、質問項目を策定しアンケート調査を任意の学校で実施した。アンケートはGoogle form で作成。全50問(自由記述を含む)。5校中、4校で実施。合計214名の教員が回答した。



▲学校組織、職場や大人関係、職場環境についての因子が、教員の行動や考え方に影響し、結果的に生徒のワクワクへ影響すると仮説を立てた。

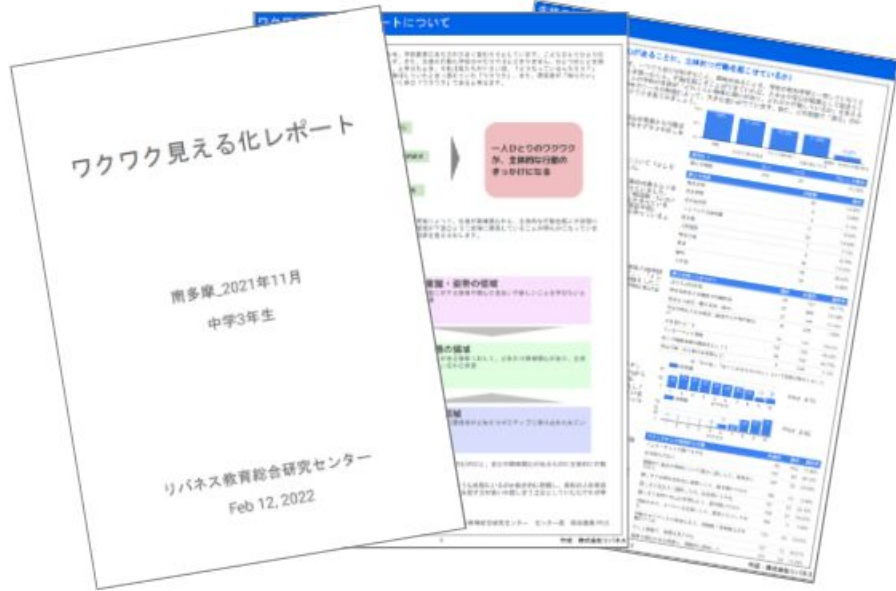
種別	下位概念	質問項目(一部抜粋)
学校組織について	理念への共感	学校の理念や行動指針は、仕事上の課題を乗り越える上で助けとなる
教員の行動や考え方	主体性	自分自身がワクワクしている様子を生徒に見せることが大事だと考えている
	挑戦志向	授業等には常に新しさを求めるほうだ
	知的好奇心	日頃から、授業やクラス運営において活用できるアイデア等がないかを考えている
	共感力	人の話を聞くときは、その人が何を言いたいのかを考えながら話を聞く
	傾聴力	人と対立しても、相手の立場に立つ努力をする
	人脈構築力	学校外に、教育について議論する仲間が多くいるほうだ
	包含力	生徒の個性が発揮されるような環境づくり、授業づくりを心がけている
	当事者意識	指示を待つだけでなく、自らアイデアを出すことを心がけている
職場環境や対人関係について	自信	学校生活を通じて、生徒をワクワクさせる自信がある
	心理的安全性	教員同士で、学校の課題や改善すべき点を言い合うことができる
	信頼関係	周りの教員に助けを求めやすい

▲質問項目の一部抜粋

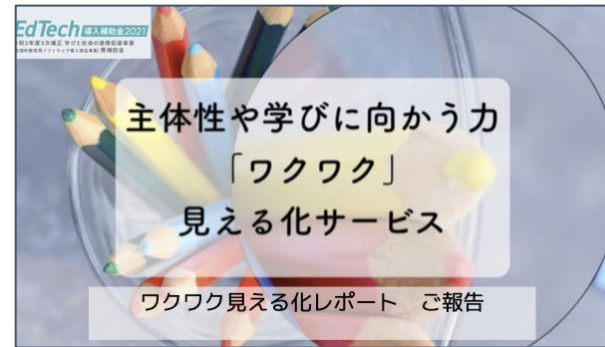
■ 補助事業において実施したサポート内容

②ご報告

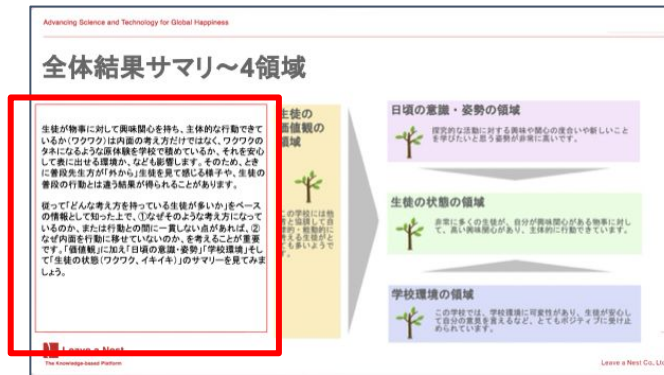
各学校のデータに関して、パワーポイントにて個別の資料を作成し、生徒の測定結果と先生の測定結果について共有した。



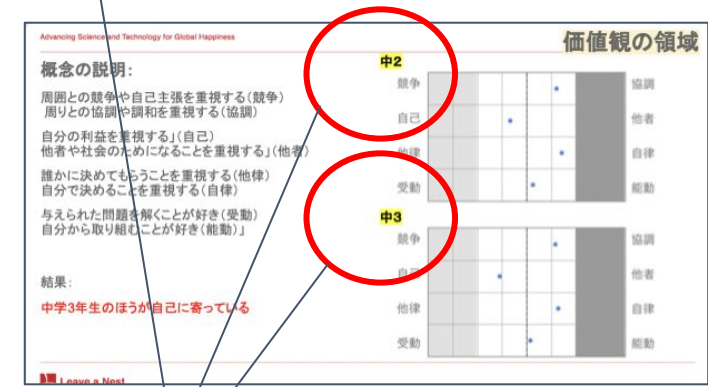
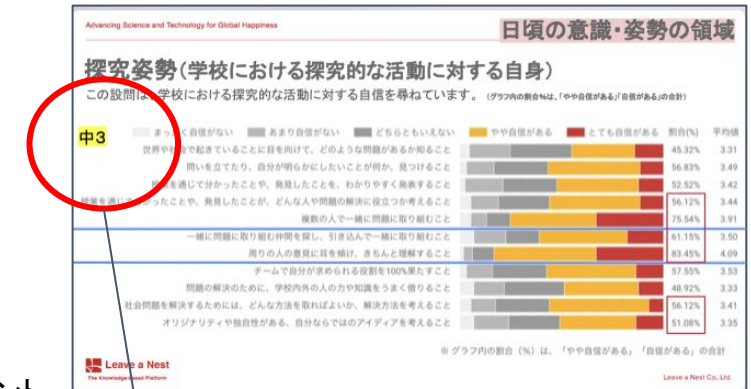
▲ 通常サービスで出てくるレポート書式



▲ 通常レポートの結果を各校ごとにパワーポイント形式に落として報告書作成



▲ 各学校ごとの着目ポイントにそった結果についてカスタマイズで報告



▲ 学年ごとやコースごとの比較の分析を実施

■ 補助事業において実施したサポート内容

③Edtech導入補助金参加学校 合同振り返り会実施

各学校の結果からの考察や、取り組みについてお互いに共有する合同振り返り会を実施した。

実施目的

「ワクワク」見える化アンケートの学校での活用方法、サービスへのフィードバックについて学校間で情報交換し、ワクワクをはじめとする非認知能力の情報のより良い活用方法を検討すること。

実施概要

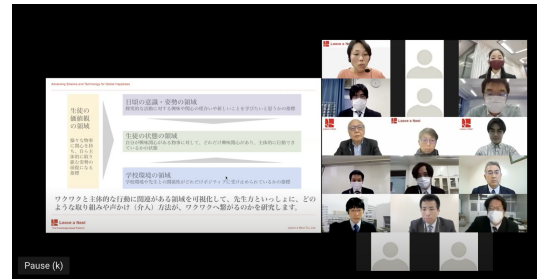
日時: 2021年12月8日(水) 16時半～18時

時間: 90分

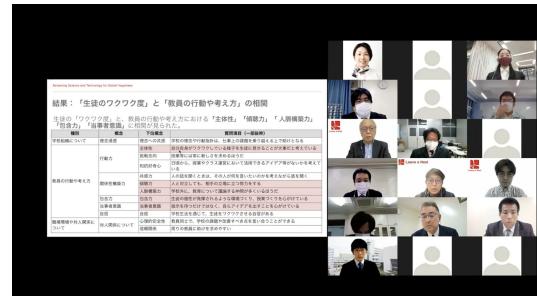
実施形態: オンライン

実施内容

- ご挨拶と本日の目的(リバネス 前田)
- 各自自己紹介(各学校の参加者 学校、名前、担当教科の紹介)
- 各学校の結果共有(各学校)
 - アンケートの目的
 - 結果(生徒結果)からわかったこと
 - この先どのように活用していけそうか
 - アンケートに関するフィードバック
- 教員向けアンケートの結果共有
- 学校間の質疑、ディスカッション、意見交換
- 終わり挨拶(リバネス 森安)



▲リバネス前田から、会の趣旨が説明



▲教員アンケートの結果共有の様子



▲ブレイクアウトルームに分かれて、意見交換が行われた

【参加者の声】

・本格的な探究学習の取り組みがこれから始まることになる本校にとっては、「とりあえず参加して他校の状況を知りたい」というのが正直なところでした。その意味では、他校の取り組み状況・悩んでいる点・アンケート参加の意図などを知ることができたことは大いに参考になりました。

・探究授業担当者だけに限らず管理職など様々な立場の方が参加されていたことも、ディスカッションに深みを与えてくれたと思います。

・派遣研究機関ごとのデータとその考察を知り、自分たちの学校の探究プログラムを考えるとときのヒントになりました。

■ EdTech導入補助金2021における導入実績

今回の取り組みでは、全国で5校の学校へ導入。合計で2932名の生徒に対してサービスを実施した。

学校	関西高等学校	東京都立南多摩中等教育学校	昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校	英数学館高等学校	神奈川県立横須賀高等学校
住所	岡山県岡山市北区西崎本町16-1	東京都八王子市明神町4-20-1	東京都世田谷区太子堂1-7-57	広島県福山市引野町980-1	横須賀市公郷町3-109
公立/私立	私立	公立	私立	私立	公立
対象学年	ITビジネス科1・2年生 普通科1・2年生 電気科1・2年生	中学校2年、3年生	中学1年～高校3年	7～11年生(中学1～高校2年)	高校1年～3年
対象人数	555	280	1092	179	829

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

アンケート結果に基づいて得られた効果は、各学校でさまざまであったが、「EdTech導入補助金2021における活用事例」のセクションでも記したように、全体的に各学校の生徒やコースの特徴を改めて可視化することで、現在の取り組みについて良いところ、改善すべきところを検討するきっかけとなった。

①他校との比較による生徒の特徴の把握

他4校のデータの平均と自校の生徒のデータを比較することで、**自分たちの学校の特徴や強みを再認識**することができた。

また、それぞれ特徴的な取り組みを行っている学校が集まったことにより、合同振り返り会を通して各学校の取り組みについて学ぶこともできた。

学校を越えてのデータを介した情報交換を通して、今後の取り組みについて検討材料を増やすことができた。

②学校内のコースごとの違いの認識

学校のコースによっての生徒の自己肯定感や探究的な学びに関する自信、興味関心からの主体的行動などの値が異なるデータが得られた。

また、**普通コースの強みが見えてきた** ケースもあり、教員には見えにくかった生徒たちの一面をデータを通して知ることができた。

各コースには担当の教員の違い、コース内での指導方針の違い、該当生徒の背景の違いなど、さまざまな要因が考えられるが、**比較的良い結果が出ているコースの取り組みを抽出し、他のコースでも生かしていけるような対策を検討することができた。**

③教員の特性についての再認識

教員向けに行ったアンケートでは、**学校の組織、人間関係、そして教員自身の意識や考え方について学校が認識**することができた。

学校間による比較をすることで、自分たちの学校組織の強みや違いについての再認識に繋がった。

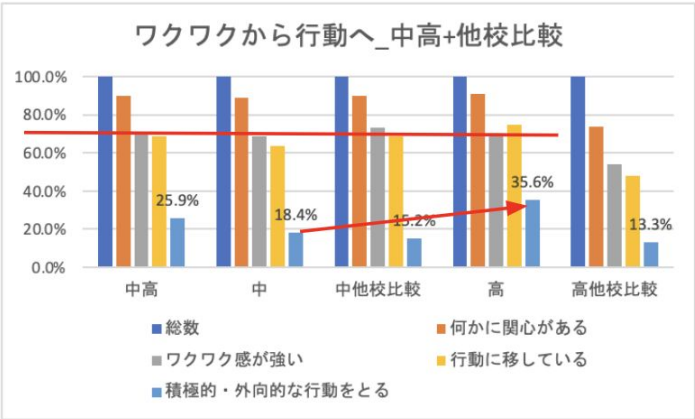
また、生徒のワクワクに関連する項目が高い教員が行っている行動についての自由記述のデータを共有することで、具体的な事例を知ることができた。

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

自校の特別プログラムの効果測定

夏から導入しているコース特有のプログラムが、生徒の主体的に学びに向かう力や知的好奇心や、その力量形成にどのくらい有効であるか、そのベースラインを知りたい。

生徒の物事への関心（ワクワク）の有無から行動まで



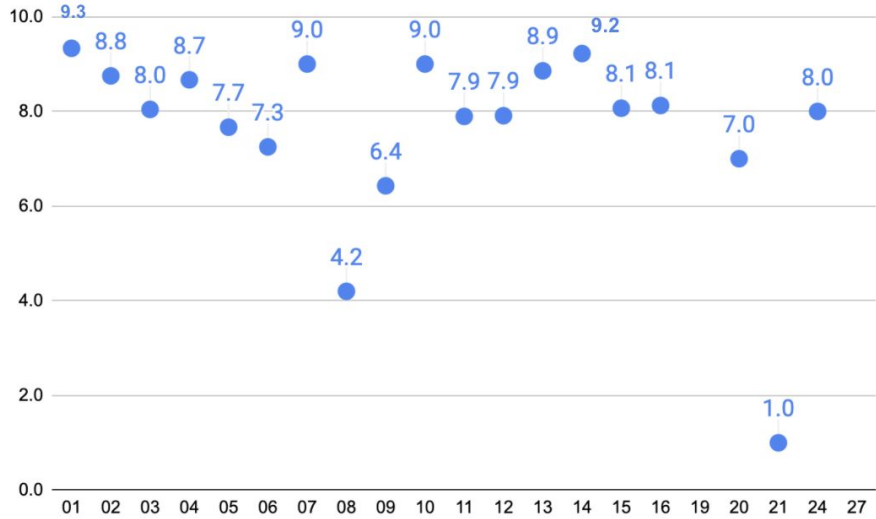
	中高	中	中他校	高	高他校
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
何かに関心がある	89.8%	88.9%	90.2%	91.0%	73.7%
ワクワク感が強い	69.7%	69.1%	73.6%	70.5%	54.0%
行動に移している	68.8%	63.8%	69.0%	75.1%	48.3%
積極的・外向的な行動をとる	25.9%	18.4%	15.2%	35.6%	13.3%

他校比較と学年比較を実施。他校と比べて、積極的、外向的な行動を取る割合が高いことがわかった。これがどのようにプログラム導入で変化するか見ていく。

データに基づいた介入方法の検討

取り組みごとの数値を可視化することで、どのプロジェクトがより上手くいっているのかを評価し、その介入方法を検討したい。

1年生：研究機関別のワクワクの強度



研究機関別にワクワクの強度をしらべたところ、違いが見えてきた。活動内容の自由度が高い方がワクワクが高いという傾向。

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

教員の意識や価値観、学校組織の客観的な把握

学校教員の考え方や組織のあり方をデータで確認し、強みや弱みの認識、人材育成に役立てたい。

表：教員の下位概念同士の相関関係（0.3以上＝相関あり）

種別	概念	下位概念	学校組織	職場環境や対人関係	
			理念への共感	信頼関係	心理的安全性
教員の行動や考え方	行動力	主体性	0.56	0.24	0.2
		挑戦志向	0.31	0.18	0.24
		知的好奇心	0.27	0.14	0.14
	関係性構築力	傾聴力	0.34	0.3	0.24
		人脈構築力	0.34	0.26	0.23
	包含力	包含力	0.38	0.15	0.1
	当事者意識	当事者意識	0.3	0.23	0.17
	自信	自信	0.3	0.17	0.17

この学校では、11項目として、7項目において比較した他の学校の教員より値が高かった。

種別	概念	下位概念	貴校の得点	全体平均	差分 (貴校-全体平均)
学校組織	理念浸透	理念への共感	3.12	2.78	0.34
教員の行動や考え方	行動力	主体性	3.34	3.18	0.16
		挑戦志向	2.95	3.12	-0.17
		知的好奇心	3.18	3.09	0.09
	関係性構築力	傾聴力	3.18	3.01	0.17
		人脈構築力	2.83	2.94	-0.11
	包含力	包含力	3.12	2.78	0.34
	当事者意識	当事者意識	3.07	3.10	-0.03
職場環境や対人関係	自信	自信	2.81	2.79	0.02
	対人関係について	心理的安全性	2.60	2.78	-0.18
		信頼関係	3.00	2.92	0.08

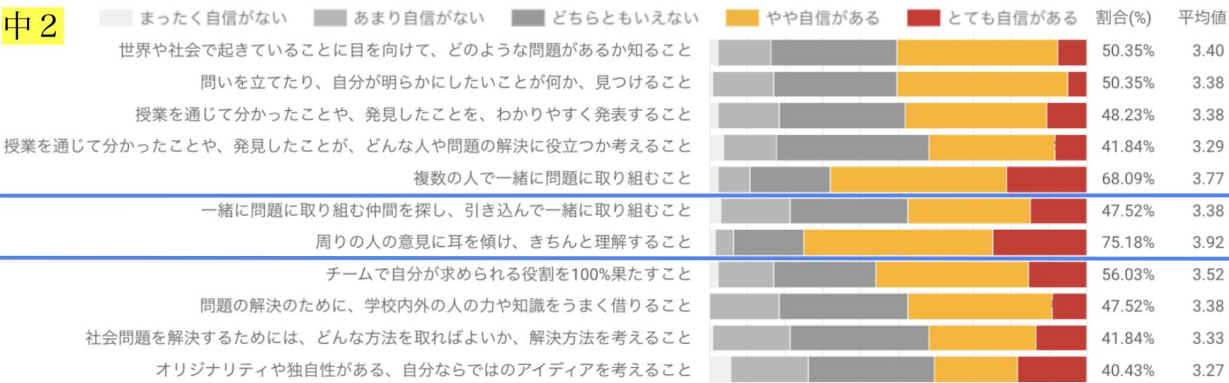
理念への共感、教員の行動や考え方が、教員の意識や考え方に相関がある ことがわかった。ここから、学校組織の効果的な運営の仕方へのヒントが見えてきた。また、教員の指標は、各学校ごとの大きく差があり、学校の教員研修開発へ活用できる。また、ここでは見えなかったチームを形成しながら進める新しい教員の形とその効果は要検討である。

知識・技能で捉えきれない力の可視化

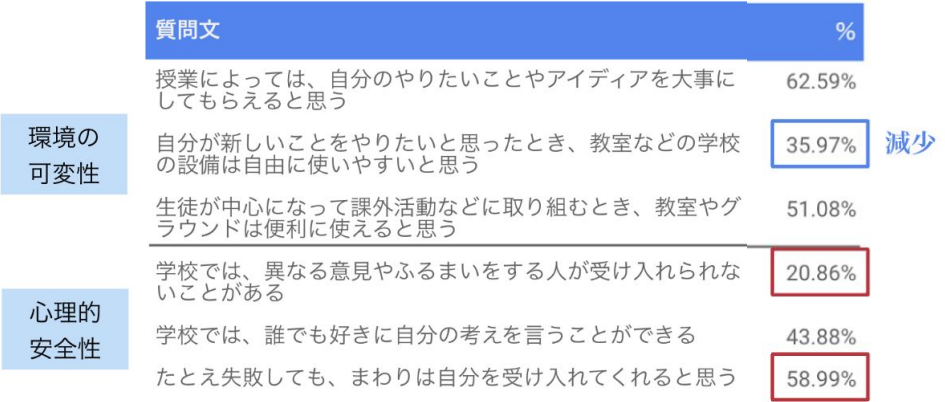
探究的な学習にどれほどの興味があるか可視化したい。学年間での成長をみたい。

探究姿勢（学校における探究的な活動に対する自身）

この設問は、学校における探究的な活動に対する自信を尋ねています。（グラフ内の割合％は、「やや自信がある」「自信がある」の合計）



中2から中3にかけて、探究姿勢について、特に「複数の人で一緒に問題に取り組むこと」「周りの人の意見に耳を傾け、きちんと理解すること」この 2点において、学年比較で大きな伸びがあることがわかった。学校の取り組みの成果の確認と、他の項目に関して、今後どのように変遷していくのか経年で見ることが重要である。同じ学校で、中3になると「新しいことをやるとき、学校の設備が使いにくい」という設問に対して平均点が減少傾向にあり、探究活動の幅が広がったときに、どう学校環境を整えるかが鍵となることが示唆された。



探究姿勢（学校における探究的な活動に対する自身）

この設問は、学校における探究的な活動に対する自信を尋ねています。（グラフ内の割合％は、「やや自信がある」「自信がある」の合計）



■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

A先生(管理職)

この結果を、先生たちが自分たちの動きを客観的に見てもらうことに使ってもらいたい。

このデータを使って、ひとりひとりの先生方がそれぞれの仕掛けをすることで次の進化が見えるのではないかな？

また、組織としての動きについて客観視できてとても面白い。

B先生(学年主任)

自己肯定感が高いのはいいことだと思う。ワクワクに出会えていないけど、行動できていないことについてどうすればいいのか考えていきたい。

新しいことを知ることに興味を持っているが、授業の中から何かを学ぼうという生徒が多く感じるので、生徒がのめり込むものを見つけられるように授業を工夫したいと思った。

生徒に通し番号を振って個人を見たい。

C先生(管理職)

生徒の特性など、せっかく細かいデータが出たので、学校内の取り組みを変えていきたい。

新しい取り組みの必要性の認識や、学校の外と接続の必要性の認識につながって欲しい。

また他の学校との比較を行うことで、自校の強みや弱みが再認識できたと思う。

D先生(探究担当)

中学校2年生から3年生の変化について、探究的な学びで実施している活動の背景と連動していて面白かった。

探究の活動中に調べ物をたくさんやるが、実験をやるので設備がそろっていないものがあるのでモヤモヤや、設備の使用について低く出たと考えられる。

教員組織についても今まで知らなかった意外な良い点がわかった。

■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

Edtechツール導入・運用における課題

①自動レポートの限界

各学校の取り組みはそれぞれであり、その理念や目指す生徒の育成像、試みている取り組みは異なる。ゆえに、比較したい対象や項目、アンケート実施の希望時期や、知りたいことはそれぞれ異なる。

そこで、今回はEdtech導入補助金を活用することで、通常の自動レポートのデータを再分析し、各学校へカスタマイズ分析を行った。多くの学校に、本サービスを活用していただきたいと考える一方で、カスタマイズにかかる工数を考えると、普及への課題を再認識した。

②介入方法に関する情報の不足

本サービスで行うアンケート調査はあくまでも現状の生徒や学校環境の状況を把握することが第一目的として開発されている。事前と事後で年に2回計測することで、学校内の介入の効果を知るツールとして活用できる。今回の導入では、1回のみの実施であった。この場合、介入方法の提案については、他の学校の取り組みや、リバネス担当スタッフの経験によるご提案に留まってしまった。

そこで導入期間の最後に実施した合同振り返り会では、各学校の取り組みについて情報交換が行われ、より多くの具体的な事例を学ぶことができた。

その改善策

①システムの改善

各学校の異なるニーズに対応できるようプログラムを改修を予定。クラスやコースなど、異なる特性データ入力の画面フォームの入力を容易にするなど、入力部分の改修と、クラスター分析や相関分析などの追加分析が容易にできるようにシステムを整備する

②各データから得られるノウハウの蓄積

アンケート調査を行う度に蓄積する各学校のノウハウについて、蓄積するプラットフォーム構築を検討。各学校の先生がそれぞれに意見を投稿したり、Good Practiceを共有することができる場をつくることで、より良い取り組みが増えるきっかけをつくる。

株式会社リバネス

- ・純売上高 1,825,710,620円
- ・純利益 447,004,717円

(2020年度決算情報)



Leave a Nest

お問合せ窓口

株式会社リバネス 教育総合研究センター(担当:前田、森安)

〒162-0822 東京都新宿区下宮比町1-4 飯田橋御幸ビル4階・5階

TEL:03-5227-4198 FAX:03-5227-4199 E-mail: eri@lnest.jp